月刊島民

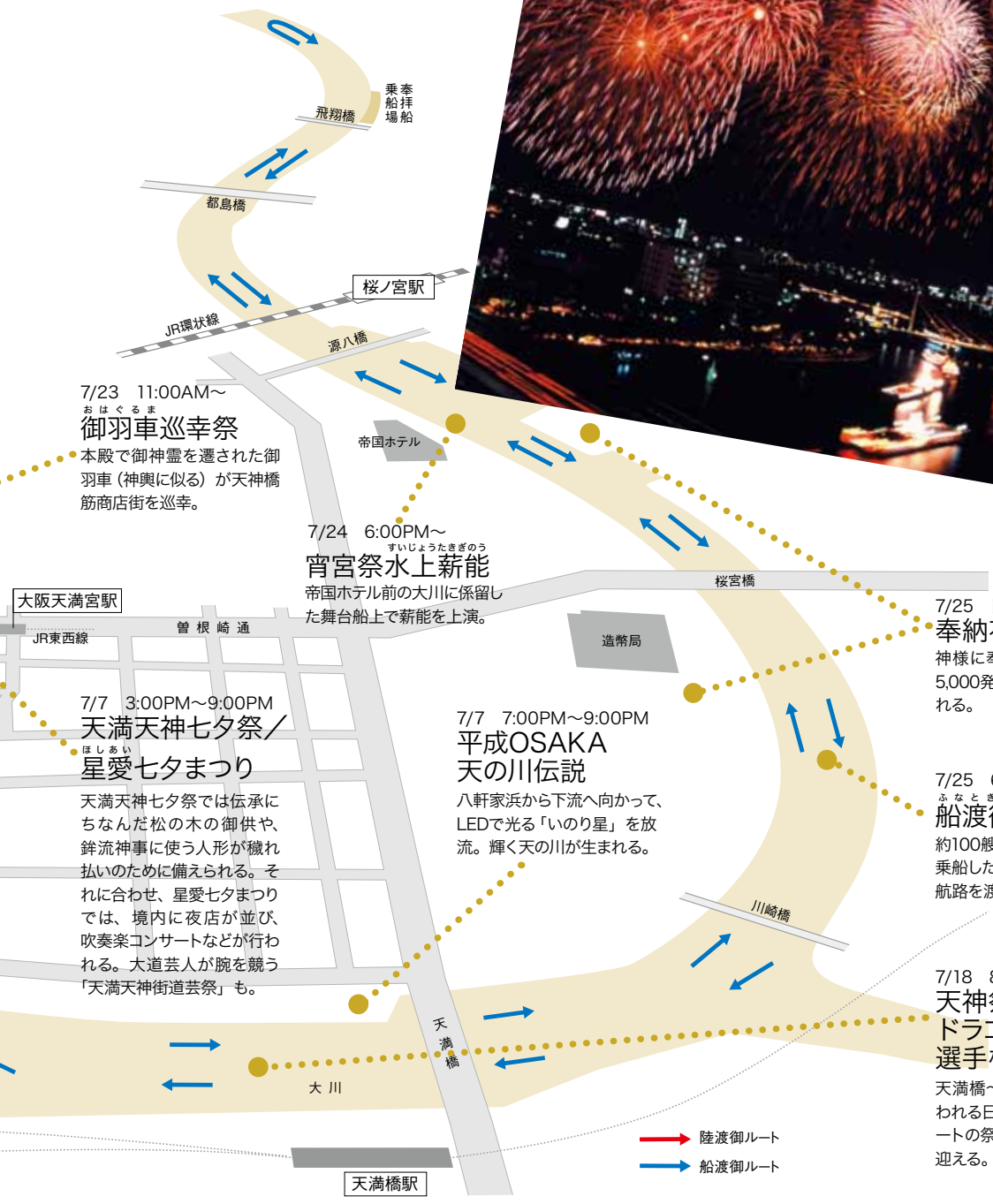
橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.24 2010 7/1

天神祭の歩き方

ナカノシマ大学
ビルマニアカフェ
「目指せ!ビルマニア養成講座」
申し込み受付中!



7/23　11:00AM～

御羽車巡幸祭

本殿で御神霊を遷された御羽車（神輿に似る）が天神橋筋商店街を巡幸。

7/24　6:00PM～

宵宮祭水上薪能

帝国ホテル前の大川に係留した舞台船上で薪能を上演。

7/25　日没～9:00PM

奉納花火

神様に奉納するために、約5,000発の花火が打ち上げられる。

7/7　3:00PM～9:00PM

天満天神七夕祭／星愛七夕まつり

天満天神七夕祭では伝承にちなんだ松の木の御供や、鉾流神事に使う人形が穢れ払いのために備えられる。それに合わせ、星愛七夕まつりでは、境内に夜店が並び、吹奏楽コンサートなどが行われる。大道芸人が腕を競う「天満天神街道芸祭」も。

7/7　7:00PM～9:00PM

平成OSAKA天の川伝説

八軒家浜から下流へ向かって、LEDで光る「いのり星」を放流。輝く天の川が生まれる。

7/25　6:00PM～

船渡御

約100艘・総勢約12,000人が乗船した船が往復約7キロの航路を渡御する。

7/18　8:45AM～6:00PM

天神祭奉納ドラゴンボート選手権大会

天満橋～剣先公園の間で行われる日本最大のドラゴンボートの祭典。今年で22回目を迎える。

天神祭カレンダー

天神祭は宵宮と本宮の2日間だけじゃない。
祭を支える人びとは、
多くの神事や関連行事を積み重ねて本番へ向かう。
いわば、このひと月の流れ全体が天神祭。
シマのすぐそばで、もう祭は始まっている。

◉6／26（土）
装束賜式（しょうぞくたまわりしき）→P5

◉7／7（水）
天満天神七夕祭→P5

◉7／9（金）
青葦奉納式（あおよし）
茅の輪に用いる青葦を琵琶湖から運んで奉納する行事。

◉7／21（水）
太鼓中当屋（たいこなかとや）**開き**
各講社の本部となる当屋。太鼓中が初めに開くのが通例。

◉7／22（木）
伏見三十石船献酒式
三十石船でやって来た船唄保存会の面々が献酒を奉告。

◉7／23（金）
御羽車巡幸祭→P2

◉7／24（土）
宵宮
催太鼓の響きとともに宵宮の朝は明ける。鉾流神事が厳かに祭本番を告げ、夕方には「準備完了」を知らせる催太鼓や獅子舞の巡行。境内では地車囃子が祝祭ムードを盛り

天神祭の歩き方

知っているようで意外と知らないかも？

中之島界隈も舞台の一端となる天神祭。千年を超す歴史を誇る日本三大祭の一つではあるが、実はその全容を把握し、「いつどこで何を見られるか」を知る人は意外と少ない。それはこの祭が神事であり、地域の伝統行事であり、観光イベントであり…と複数の要素が絡み合う祭りの巨大さ・多面性が一因だ。まずは全体を概観するところから始めてみよう。

取材・文／大迫 力　松本 創（本誌）　写真／ⓒ大阪観光コンベンション協会

※各行事の時間などは変更される場合もあります。

◉天神祭に関するお問い合わせは大阪天満宮社務所までお願いいたします。
☎06-6353-0025

監修／高島幸次　天神祭研究の第一人者。P7にはインタビューを掲載。また7月9日（金）、追手門学院大阪城スクエアで行われる「本邦初演！ 天神祭の落語会」のコーディネーターも務める。林家染丸・桂枝三郎・桂三風の3名と「天神祭の楽しみ方」について語り合うほか、3名が1席ずつ天神祭をネタにした落語を披露する。2：00PM～4：30PM頃　1890円（5名以上で申し込むと1名1470円）　106-6346-8700（毎日文化センター）

7/25　3:30PM～
陸渡御（りくとぎょ）
総勢約3,000人の大行列が船渡御の乗船場である天神橋まで渡御を行う。

7/23　8:00PM～9:30PM
北新地巡行
北新地・堂島の賑わいを取り戻すべく、鳳講・天神講獅子が巡行する。戦前は北新地も巡行コースに含まれていたことにもちなんでいる。

7/24　8:50AM～
鉾流神事（ほこながし）
船上から神童の手により白木の神鉾が流される。祭の起源に倣った神事。

7/23　11:30AM～
ギャルみこし
天神祭の前景気を盛り上げる恒例行事。約80名の女性がみこしをかつぐ。

◉7／25（日）
本宮
朝から境内に響く太鼓やお囃子も、氏地の平安を祈る本宮祭（夏大祭）の間は鳴り止む。終わると、いよいよ陸渡御が始まり、水都の祭は最高潮を迎える。

1：30PM～
本宮祭

3：30PM～
陸渡御→P4

6：00PM～
船渡御→P4

船渡御中随時
船上祭

日没～
奉納花火→P4

9：00PM頃～
催太鼓宮入

10：00PM頃～
還御祭（かんぎょさい）

4：00AM～
催太鼓一番太鼓（もよおしだいこ）

7：45AM～
宵宮祭

8：50AM～
鉾流神事→P5

4：00PM～
催太鼓巡行

7：30PM～
獅子舞宮入

4：30PM～
どんどこ船宮入

6：00PM～
宵宮祭水上薪能

上げる。

◉天神祭の「いろは」

基礎知識編

い

大阪天満宮
【おおさかてんまんぐう】

平安時代中期の天暦3年（949）に創祀。その約50年前に九州の太宰府へ左遷され、無念の死を遂げた菅原道真公の怨霊を鎮めるため、全国に設置された天満宮の一つ。道真公が九州へ行く途上に参拝した摂津の大将軍社に、ある日7本の松が生え、夜ごと金色に輝いた。その不思議な出来事を知った天皇が、この地に新たな天満宮の造営を命じたのが始まりとされる。大将軍社は天満宮境内に現存する。創祀の2年後には鉾流神事（ほこながしんじ）が行われ、これが天神祭として発展した。7月25日の本宮だけで100万人が集まるといわれる日本最大級の夏祭である。

菅原道真
【すがわらのみちざね】

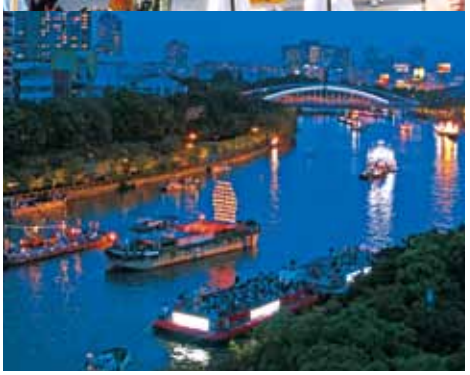
845～903年。学者、漢詩人、政治家。幼い頃から秀才で、高名な学者となった一方、政治家としても重用された。が、出世をねたむ政敵の策謀で都を追われ、まもなく死去。その直後から落雷などの天変地異が相次ぎ、政敵をはじめ朝廷の要人が次々と急死したことから祟りと恐れられ、道真公を祀る天神信仰が生まれた。現在は学問の神様として有名。

陸渡御・船渡御
【りくとぎょ・ふなとぎょ】

社殿にいる神様が、年に一度、氏地の平安を見届けて回るのが渡御、そのお供に氏子たちが行列を組むのが渡御列。天神祭の陸渡御は境内を出発し約4キロの道程を約3000人が歩く。催太鼓（もよおしだいこ）を先頭に、御羽車や獅子舞の第1陣、天神さんを乗せた御鳳輦（ごほうれん）のある第2陣、玉神輿（たまみこし）と鳳神輿（おおとりみこし）の第3陣からなる。一行は、天神橋のたもとから船に乗り込み船渡御へ。お迎えの船も合わせ100隻余りが夜の大川を行き交う。約60年前までは現在と反対の中之島方面へ向かっていた。

奉納花火
【ほうのうはなび】

御鳳輦船で行われる船上祭が終わると、桜ノ宮公園と川崎公園から約5000発の花火が打ち上げられ、「火と水の祭典」は最高潮を迎える。神様に奉納する目的で始まり、江戸時代から庶民の楽しみになっていた。天満宮社務所では1発5000円で市民からの協賛も募っており、記念品として三号玉のレプリカがもらえる。



陸渡御に出る御鳳輦（上）。前後を賑やかな太鼓や神輿が行く。一方、船渡御の眺め（下）は優雅で涼しげ。動と静の好対照。

知ってる？ 天神祭

天神祭の「食」と言えば。

天満界隈の旧家では、天神祭の日は正月並みに豪勢な食卓になった。脂の乗ったハモ、明石産のタコ、白天やカイワレなど、旬の食材を並べて祝った。門前町の天神橋筋商店街でも、ハモの湯引きや甘辛いつけ焼き、ハモ入りの白天、タコの酢の物などが、あちこちの店で供される。渡御列の参加者が食べる縁起物が白蒸し。もち米を蒸し、梅干しを乗せて竹皮で包んだ携帯食で、腹もちが良く、傷まないのがいいという。祭当日は境内でも販売される。

◉天神祭の「いろは」

神事編

ろ

装束賜式【しょうぞくたばりしき】

天神祭で重要な役割を担う諸役を任命する神事始めの行事。神童、随身、牛曳童子、猿田彦を務める氏子に、宮司から装束が手渡される。毎年6月下旬（今年は26日）に行われ、祭の準備はここから正式に動き出す。式を終えると葬式参列やケンカを禁じられ、本宮直前の3日間になると、神童とその家族は肉を食べてはならない。

鉾流神事【ほこながししんじ】

天神祭の起源となった神事。古くは、1年の折り返しの日に鉾を川に流し、流れ着いた先に御旅所を設けて、残る半年の無病息災を祈願していた（夏越祓）。この時に氏子たちがお供したのが船渡御の始まりとされる。船渡御のコースが固定された現在も、祭の幕開けを告げる重要な神事として受け継がれており、毎年7月24日の朝、鉾流橋のたもとから堂島川に漕ぎ出した船の上で厳粛に行われる。鉾を流す神童は西天満小学校の児童から選ばれる。なお、鉾とは刀のようなもので、疫病などの災厄を断ち切るという意味が込められているという。

若松の浜（天満警察署の南）から船を漕ぎ出し、龍笛の調べの中、白木の神鉾を流す。

御鳳輦奉安船【ごほうれんほうあんせん】

船渡御は大きく6つのグループに分かれる。神様の乗る4隻が「奉安船」。なかでも天神さんの乗物である御鳳輦を乗せているのが御鳳輦奉安船。その前後をお供するのが「供奉船」。天神橋～飛翔橋間を周回する、この2グループが神事を担う。一方、飛翔橋から川を下ってお迎えに出るのが、企業や経済団体が自社のPRも兼ねて出す「奉拝船」、神楽や能を奉納する「舞台船」。自由に動き回り、渡御列を賑わす「列外船」には、昔ながらの手漕ぎのどんどこ船、御迎人形のレプリカを飾る人形船がある。「停泊船」はかがり火を焚き、川面を照らす。

七夕【たなばた】

天満は古くから「星辰信仰」の地であり、天満宮ができる250年前には大将軍社があった。周囲には明星池、七夕池、星合池という3つの池があり、人びとは水面に映る星に疫病退散を祈った。7月7日には穢れをはらう星祭（七夕祭）が行われていたが、これが後に天満宮の鉾流神事に受け継がれていく。こうした歴史に倣い、平成7年7月7日に復活したのが「天満天神七夕まつり」。本殿での神事のほか、境内では茅の輪くぐりや天神橋筋商店街の「星愛七夕まつり」で賑わう。

「東風吹かば…」の和歌やこの肖像画（大阪天満宮文化研究所所蔵）にもあるように、菅原道真公の梅の花好きは有名。

◉天神祭の「いろは」

町人編

は

講社【こうしゃ】

天神祭に奉仕するために氏子が結成する有志の組織。神事は天満宮の神職が行うが、神様のお迎えや奉納をする「神賑行事」は、この講社が担う。講社の始まりは江戸時代中期といわれ、現在は新旧32を数えるが、地縁組織だけでなく、同業者単位の組織が多いのが商人の町らしい。例えば、米穀商の「御錦蓋講」、酒造会社や酒屋の「御神酒講」、出版関連業者の「大阪書林御文庫講」など。各講社には決まった役割があり、「太鼓中」なら催太鼓、「地車講」なら地車囃子を担当する。祭が近づくと、それぞれが拠点となる「当屋」を境内に構える。

御迎人形【おむかえにんぎょう】

神様をお迎えするための豪華絢爛な風流人形。江戸時代には、祭が近づくと氏地の各町が飾り、船渡御の際には船の舳先に立てた。町人に人気のあった歌舞伎や文楽の人物が多く、幕末の頃には50体以上あったというが、現存するのは真田幸村、酒田公時、木津勘助など16体（うち14体が府の文化財）。数体が境内などに展示される。

かつては佐々木高綱だとされていた御迎人形。明治に入り、実は豊臣方の真田幸村だとカミングアウト。

地車囃子【だんじりばやし】

祭では、太鼓、鉦、笛、掛け声などさまざまな音が飛び交う。旧天満青物市場が奉納し、今ではたった一台残るだけとなった地車が奏でるのは大太鼓、小太鼓、鉦によるお囃子。大太鼓は、皮を打つ「中打ち」と縁を打つ「フチ打ち」、それに鋲をガラガラこする3つの奏法がある。84台もの地車があった江戸時代には、地響きがするほどだったらしい。

大阪締め【おおさかじめ】

船渡御で船同士が行き交う時、宮入りの際には地車の前で、それ以外にもさまざまな場面で交わされる祝いの手打ち。「打ちまーしょ、もひとつせえ、祝うて三度」の声に合わせて、2・2・3回、手拍子を打つ。無事に祭が行われ、神様を迎えられたことを氏子同士が喜び合う挨拶なので、神様が乗る御鳳輦などに向けてやるのはふさわしくない。「打ーちましょ」と言葉を伸ばす部分が変わる女締めもあるが、天神祭では行われない。

唯一残るのは屋根が3層になった珍しい三ツ屋根地車。境内では地車囃子に合わせた「龍踊り」も見られる。

知ってる？ 天神祭

祭を支えるボランティア。

町衆が支える天神祭では、観光客を迎えるボランティアも盛んだ。例えば「天満天神御伽衆」。大阪天満宮文化研究所の講座修了生たちが、境内や奉拝船でガイドを務める。また、かつて天満市場の人たちがシジミの貝殻でこしらえ、境内を飾り立てたフジ棚の「造り物」を再現し、彩りを添える。2日間で500トンにも上るゴミに立ち向かうのは天神祭美化委員会、通称「ダストバスターズ」の面々。1500ものゴミ箱を設置し、祭の終わった夜中まで回収に回る。

天神祭はなぜ「わかりにくい」のか？
千年の歴史と三重構造

髙島幸次（大阪天満宮文化研究所／大阪大学招聘教授）

船渡御、花火、ギャルみこし…。
水都の繁栄を象徴する大祭であり、千年の歴史を誇る大阪の夏の風物詩ながら、天神祭は一つのイメージで捉えにくい。ゆえに、見どころもわかりにくい。なぜだろう。
天神祭研究の第一人者、髙島幸次先生に聞いてみた。

取材・構成／松本 創（本誌）

神事と神賑行事と観光イベント

天神祭の全体を見た人はほとんどいないでしょうね。神主は境内で神事を務め、渡御に出ても目の前はいつも同じ背中（笑）。氏子は講社の奉仕に忙しい。船に乗ってしまえば、船上からの風景しか見えません。私が知る中ではたった一人、講社を抜けた後に全部見て回った方がいましたが、「13年かかった」と言ってましたよ（笑）。

そもそも祭とは神様を「祀る」ことと考えれば、日常的に神社でやっていることなんです。ところが天神祭は、その神様が社殿を離れて氏地を巡行するという形を取るため、空間的な広がりが生まれる。また、氏子にすれば「年に一度、天神さんが来てくれはるのに仕事なんかしてる場合やない」となる。着飾って、賑やかな音立ててお迎えせないかん、と。これが「神賑行事」です。さらに、近年では観光集客を狙った関連イベントも増えてきました。

つまり、天神祭は神職が担う神事を核として、その回りに氏子による神賑行事、さらに外側に観光イベントがあるというドーナツ状の三層構造になっているんです。

船渡御とひと口に言っても、神様の乗る奉安船は神事ですが、お迎えの奉拝船は神賑行事、橋や岸で見ている人たちは観光です。花火は一見、観光イベントのようですが、本来は神様に奉納する神賑行事。神楽やお囃子も、かがり火を焚くのもそう。神様に喜んでもらうためにやっているんです。こうした構造が「誰が、何を、何のためにやっているのか」をわかりにくくしている一因でしょう。

「伝統」と「変化」を併せ持つ強み

ただ、これは祭の歴史と成熟の証しとも言えます。鉾流神事が始まった951年以来、神賑行事が中止になることはたびたびありました。近くは戦時中やオイルショックの時（1974年）。10年前には、香淳皇后の斂葬の儀が本宮の7月25日と重なり、開催が危ぶまれました。けれど結局、社殿での神事は例年通り厳粛に執り行い、渡御などの行事は翌26日に延ばすことで解決したんです。神事と神賑行事が分かれているからこそ対処できたんですね。

こうして1060年続く祭の中で、神事は一度も途絶えたことはありません。昭和28年（1953）には、船渡御のコースが、地盤沈下で橋をくぐれなくなったために、それまでの中之島方面から正反対の現在のコースに変わるという大きな変化もありました。伝統を守りながら、その時どきの社会情勢に対応していくには、変わらない部分と変えられる部分を併せ持つことが大事。この点で、天神祭の三重構造は大きな強みになっているんです。

トウミン月報

2010年7月1日発行

建築事務所の1階に期間限定書店オープン

中之島の西の端、中央卸売市場を越えるとそこは野田。自転車で町内を回る豆腐屋さんがいたりと、昔ながらの生活風景がある。昨年秋に引っ越してきた建築家の矢部達也さんは、そんな野田の様子を見て、「せっかく地面に接しているのだし、閉じてはもったいない」と事務所兼住居ビルの1階をパブリックスペース「CUT the CORNER」として開放することに。3月にはイラストレーターの作品展、そして現在は知人で古書店も営む加藤博久さんが、水曜・土曜限定で「水土書店」を開店している。デザイン、サーフィン、地図、文学、建築など棚に並ぶ本はさまざまだが、好きな人にはそれと分かる隣接ジャンルへの水平展開読書が進みそうなラインアップ。「まだ決めていないけど、いろいろやっていきたい」と矢部さん。実は中之島線をよく利用する島民でもあった。（大迫 力・本誌）

CUT the CORNER meets
'books + kotobanoie'「水土書店」
矢部達也建築設計事務所（http://www.dezanani.net/office/）1階にて開店。7月24日（土）まで、毎週水曜・土曜の12:00PM～6:00PM。同時に"本読み"でもある矢部さんの蔵書も読むことができ、図書館のようでもある。ちなみに加藤さんの本業はボルボ専門の中古車販売業。ネット販売の古本も良い味の出たセレクト（http://kotobanoie.com/index2.html）

天満橋駅で祇園囃子 舞妓さんが粽を配布

特集で取り上げた天神祭は大阪の夏の風物詩だが、京都の夏のお祭りと言えばやはり祇園祭が代表格。山鉾巡行などを前にして高まりつつある祇園祭のムードを、大阪でも感じる催しが京阪シティモール前広場にて行われる。

7月9日、放下鉾祇園囃子保存会の囃子方のみなさんが、「コンチキチン」の祇園囃子を披露。また、舞妓さんも登場して、厄除けの粽（ちまき）を配ってくれる（数量限定）。粽は、祇園祭の鉾が建つ間、それぞれの山鉾の前で売り出される。と言っても食べるものではなく、京都では授かった粽を1年間、家の門口に飾って厄除けにしているそうだ。お祭りの気分に浸ったら、そのままふらりと京都まで出かけてみるのも良いかもしれない。（大迫 力・本誌）

日時／7月9日（金） 9:20AM～10:15AM
場所／京阪シティモール前広場（天満橋駅下車すぐ）
問い合わせ／☎06-6944-2525
（京阪電車宣伝担当／9:00AM～6:00PM、土・日・祝休）
http://www.okeihan.net

開催迫る！ビーチバレー大阪カップ

中之島では一昨年から行われるようになったビーチバレーの大会。今年も中之島4丁目に特設される会場で熱戦が繰り広げられる。すでに中之島の恒例行事となりつつあるが、今大会も注目選手が多く出場し、注目度は高い。写真の浅尾美和選手をはじめ、男子でも元日本代表の朝日健太郎選手など、人気選手が顔を揃える。オフィス街とのギャップも面白い「ビーチ」も見どころの一つと言える。チケットは京阪電車三条駅・丹波橋駅・枚方市駅・京橋駅（7月13日まで）のほか、各種チケットセンターにて発売中。（大迫 力・本誌）

「ビーチバレー大阪カップ 中之島大会」
7月15日（木）～18日（日）中之島ビーチ（特設会場）
前売券：15日（木）、16日（金）1,000円／17日（土）、18（日）1,500円
当日券：15日（木）、16日（金）1,500円／17日（土）、18（日）2,000円
※小学生以下は前売り、当日券共に500円。すべて自由席、当日限り有効。
※雨天決行、荒天中止の場合は払い戻し。※中之島ビーチ（特設会場）への入場は無料ですが、メインコートでの試合観戦にはチケットが必要です。
問い合わせ／キョードーインフォメーション☎06-7732-8888
●最新情報はhttp://www.mbs.jp/beachvolleyball/

音楽、テレビ、アート、伝統芸能…
大阪城とその周辺にさまざまなイベントが集合！
大阪城サマーフェスティバル2010
7月7日（水）～9月5日（日）

大阪城サマーフェスティバル

西の丸庭園プロジェクト

～祈りのゴスペル～ アノインティッド マス クワイヤー 大阪城LIVE!!

天に向かって歌う歌、それが「ゴスペル」。
言葉でも音程でもリズムでもない。
心のままに、感情のままに、透明な気持ちで歌う
シンガーたちが夏の夜の大阪城に集います。
年齢、性別、宗教に関係なく
「一人一人の祈りのメッセージ」を、
他に追随を見ない圧倒的なハーモニーで表現します。
そして、どんなサプライズが飛び出すか！

日時：8月22日（日）6:30PM（開演）　※小雨決行
場所：大阪城西の丸庭園
料金：大人3,000円（前売り2,500円）
　　小中学生1,000円
問い合せ：206-6450-0505
　　（アノインティッド マス クワイヤー大阪城 事務局）

「西の丸庭園プロジェクト」とは？
8月20日～25日、大阪城西の丸庭園の特設ステージを舞台に、音楽ライブやテレビ番組の公開収録、薪能など、さまざまなコンテンツが繰り広げられます。

●大阪城サマーフェスティバル実行委員会事務局〈（財）大阪21世紀協会内〉　206-6942-2004（月～金曜9:30AM ～ 5:30PM）　http://www.osaka21.or.jp/

250 DOORS

◎体験型講座が250種類！
◎夏休み期間に開催する19日間のワークショップフェスティバル！
◎誰でも気軽に体験できる「文化創造の扉」
◎参加費はいずれも500円

　みなさんが“ちょっとやってみたいな”と思うような趣味や習い事、例えば、ヨガやベリーダンス、落語、講談、能楽やDJ体験、ペーパークラフトやアロマテラピーをはじめとした多種多様な講座がワンコイン500円で楽しめるのが、ワークショップフェスティバル「DOORS（ドアーズ）」です。中には、昨年も好評を博した、テレビでお馴染みのコンドルズ近藤良平さんの「炎のワークショップ」や元ニュースキャスターの平松邦夫さんの講座などもあります。
　今年は大阪市内で４会場、新たに京都市内に１会場を設けて、250のワークショップを開催しますので、ご興味をお持ちの講座にお早めにお申込みください。

開催日：前期7月31日（土）～ 8月9日（月）
　　後期8月16日（月）～ 8月24日（火）
開催場所：大阪市役所、大阪市中央公会堂、芝川ビル、元立誠小学校（京都市）、
　　大阪市立芸術創造館、大阪市旭区民センター
主催：IWF実行委員会（LLPアートサポート、
　　（財）大阪21世紀協会、関西広域機構）
共催：大阪市
問い合わせ：IWF実行委員会事務局
　　〒535-0003 大阪市旭区中宮1-11-14 大阪市立芸術創造館内
　　2080-3841-6006 (受付時間：10:00AM ～ 6:00PM)
●DOORSの詳細はHP（http://www.artcomplex/net.doors/）や、
　地下鉄駅構内などで配布のチラシをご覧ください。

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2010年
8月講座

「目指せ! ビルマニア養成講座」
BMC（ビルマニアカフェ）

リバーサイドビルヂング
（1965年）

浪花組（1964年）

ビルリバーセンター（1965年）

新朝日ビル（1958年）

レトロ近代建築だけじゃない。大阪の街を形づくる「戦後ビル」を見よ！

大阪市中央公会堂や中之島図書館など、明治〜昭和初期にかけて生まれた近代建築は、大阪のシンボルとも言える存在だ。だが、街の風景を形づくっているのはレトロ建築ばかりではなく、むしろ1950〜70年代、高度成長期に建設されたビルも多い。あまりスポットの当たらないそうした「戦後ビル」は、経済成長の追い風を受けて丹念に手間暇をかけてつくられており、そのシブい魅力は近代建築とは違う味わい深さがある。

今回の講師は、そんな戦後ビルの魅力に取りつかれ、『月刊ビル』なる偏愛雑誌まで出版してしまったBMC（ビルマニアカフェ）のみなさん。ビルの細部の名称や素材、マークなどディテールまで遊び尽くそうとする貪欲な精神は感動的。目指せ、ビルマニア！

BMC（ビルマニアカフェ）
1950〜70年代のビルをこよなく愛する5人のユニット。一級建築士、街の不動産屋、雑貨屋店主など多彩な顔ぶれが揃う。7月30日(金)・31日（土）には千日前・味園ビルで大ビアガーデンを開催するなどナイスな企画を連発中。
http://bldg-mania.blogspot.com/

会場はもちろん、丹精こめた渋ビルで！
会場は平野町の丹平ビル。ヴォーリズ建築事務所が設計。階段や壁、手すりなど、細かい部分まで丁寧に造られたビルで、ビルマニアにとっては憧れの場所。薬の卸業を営む会社の自社ビルで、普段は社員の人しか入れない会議室を特別に提供していただきます！

募集要項

「目指せ！ ビルマニア養成講座」
講師／ BMC（ビルマニアカフェ）
日時／ 8月26日（木） 7:00PM 〜（開場6:30PM 〜）
会場／丹平ビル 4階会議室
受講料／ 1,500円
定員／ 100名
主催／ナカノシマ大学事務局
協力／大阪21世紀協会 協賛／関西電力株式会社

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は http://www.nakanoshima-univ.com

お問い合わせ106-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

ナカノシマ大学7月講座 締め切り迫る!

平城遷都1300年「奈良から見た大阪〜平城京と難波京〜」

開催記念！ 千田 稔氏インタビュー「奈良から見ると、大阪も京都も違って見える」

日本文化の根源は京都だと言う人は多いが、必ずしもそうではない。奈良時代の文化は、外国から直輸入したものを日本流にアレンジして根付いた。海外の文化をなんとかして取り入れようとしたエネルギーは大きい。反対に京都は外国文化を取り入れる機会が少なく、一種の鎖国状態だった。要するに「隅っこ引きこもり文化」やね。

また、東京の場合は明治維新を機にヨーロッパ文化を取り入れていくが、学問や工業といった表面的なものだけを取り入れている。ヨーロッパ文化にはなんでもキリスト教が思想的背景にあるけど、医学でも技術のみが入ってきて、医学倫理は根付かなかった。ところが、奈良の場合は、仏教と一緒に根底的に文化を輸入している。光明皇后が悲田院を造るのは、仏教文化に基づいた福祉政策であって、仏教と文化はひとつの塊として入ってきた。そこが東京とは段違い。日本を考える時に、奈良から見ると、東京も京都も大阪も違って見えてくる。

●募集要項
日時／7月27日（火）
7:00PM 〜（開場6:00PM 〜）→地図P23
会場／追手門学院 大阪城スクエア
受講料／2,100円
定員／400名
主催／ナカノシマ大学事務局　追手門学院
協力／大阪21世紀協会
協賛／関西電力株式会社
◎申し込みはナカノシマ大学ホームページ、もしくはハガキかファックスで。
お送り先はP10をご覧ください。
※必ずご希望の講座名を明記してください。

ナカノシマ大学 NAKANOSHIMA UNIVERSITY 講義レポート

5月20日（木）

「風雲急!? 幕末大坂の風景」

@追手門学院 大阪城スクエア　講師／髙島幸次

政変の中心にあった京都や江戸とは違う「幕末大坂の風景」をテーマにしたナカノシマ大学５月講座。講師は、本誌幕末特集で監修・寄稿いただいた高島幸次先生。

大坂の幕末を知る手掛かりとして先生がまず挙げたのは、後に倒幕の志士となる清河八郎が遺した旅行記『西遊草』。「天下の富地」らしい賑わいはあるが江戸ほどではないという感想や、天神祭の船渡御を難波橋から眺めた話などが綴られている。大坂にもやがて不穏な空気は満ちてくる。不正を働く役人や利益を独占する商人への「天誅」を宣告する張り紙が町中に貼り出され、実際に首がさらされることも。

高島先生が研究員を務める大阪天満宮には、こうした町の動向を伝える貴重な史料が多数残る。新選組を警戒して天神祭が中止になったり、「ええじゃないか」のような大騒ぎが流行したり。そこから浮かび上がるのは、小説やドラマに出てくる志士たちとは異なる視点から、政局の行く末を見守る町人の姿だった。

一万人の感動

最高の音響、照明でドラマチックな舞台を演出。
コンサート、スポーツ、コンベンションなど、
さまざまなイベントに対応するビッグなアリーナです。

財団法人大阪城ホール
〒540-0002 大阪市中央区大阪城3-1
TEL.06（6941）0345　HP・http://www.osaka-johall.com
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅下車徒歩3分
JR大阪環状線「大阪城公園」駅下車徒歩5分

研修会、講演会、展示会に、
コンベンションホール（150人収容）をご利用ください。

7月の時間割 ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介。

大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

11	日	11:00AM～ 2:00PM	「ポーポー屋料理教室」中東ゆうこ(ポーポー屋店主) 参加費:3,800円 今回は沖縄料理!プロから学ぶ沖縄野菜の処理の仕方から料理のコツまで、丁寧にお教えします。	会場G
13	火	7:30PM～ 9:00PM	「石原正一のヨミすぎ!～古今東西名作朗読会～」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜です。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。	会場A
15	木	7:00PM～ 8:30PM	「落語を楽しむ」桂蝶六(落語家) 受講料:2,000円 (テキスト付) 上方落語に描かれる登場人物の目線や背景など理解しておくと、落語鑑賞がもっともっと面白くなります。	会場D
17	土	5:00PM～ 7:30PM ※終了後、交流会あり	「奥村昭夫デザインワークショップ」奥村昭夫(グラフィックデザイナー) 受講料:3,800円 (交流会の料金含まず) グリコのロゴなどで有名なグラフィックデザイナー、奥村昭夫氏によるデザインワークショップ。	会場C
17・24	土	1:30PM～ 3:30PM	「限定30枚!オリジナルしおりをつくろう!!」中村真由美(エイブルアート・カンパニー登録作家) 参加費:無料 あなたのお気入りの張り子「ハリポテ」のイラストを、中村真由美が会場でしおりに描きます。	会場E
19	月	10:00AM～ 1:00PM 2:00PM～ 5:00PM	「トリ・スクール」岡山 拓(美術家) 受講料:2,500円 (1ドリンク付) 展覧会カタログを参照しながら、初めての人でも分かるようにゆっくり美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場F
19	月	11:00AM 1:00PM 3:00PM (3回から選択)	「夏の苔玉ワークショップ&フリーマーケット」松本(グリーンショップ「三日月豆」店主) 参加費:3,800円 (ランチ付) インテリアに欠かせない植物。好きな植物を選んで、世界にひとつの苔玉を作りませんか?	会場G
21	水	2:30PM～ 4:00PM	「珈琲の美味しい淹れ方」百合知佳(百合珈琲) 参加費:2,000円 (焼き菓子+コーヒー豆付　3回5,000円) 美味しいコーヒーの常識が変わります。3回終了された方には、百合珈琲より修了書が贈られます。	会場G

大阪大学21世紀懐徳堂

●大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と協同で淀屋橋odona2階「アイ・スポット」で開催する講座です。

21	水	6:30PM～ 8:00PM	「パリ、シャンソン地図」深川聡子(文学研究科・招聘研究員) シャンソンの題材として特権的なトポスを数多く擁するパリを、曲を鑑賞しながら地図を片手に辿る。
30	金	6:30PM～ 8:00PM	「協働のまちづくり」加賀有津子(工学研究科・教授) 住民が主役となってまちづくりに取り組んでいる事例を紹介しながら、まちづくりについて考える。

会場／アイ・スポット(淀屋橋odona2階)　受講料／無料　申し込み・問い合わせ／大阪市計画調整局☎06-4866-6803

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

17	土	1:30PM～ 3:00PM	「古代語の謎を解く」蜂矢真郷(大阪大学名誉教授、中部大学教授) 受講料:1,575円 古代の言葉について、形や意味を変えながら現代でも用いられているものを中心にその語の成り立ちや由来を考える。
31・8/7	土	10:30AM～ 12:00PM	「美味しく食べる～口からの健康～」脇坂聡(歯学研究科教授) 受講料:3,150円 (全2回) 第1回は「歯と歯周組織」、第2回は「味覚受容器」について解説し、「美味しく食べる」ことの重要性を考える。

会場／大阪大学中之島センター　申し込み・問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島)☎06-6222-5224

●大阪・京都文化講座「京と大坂―歴史・文化・学問をたどる―」 大阪大学が立命館大学文学部、立命館大阪オフィスと共催しているセミナーです。

5	月	2:00PM～ 3:40PM	「モダン都市大阪の衛生・疾病・環境」廣川和花(大阪大学総合学術博物館助教) 経済・文化の繁栄と共に公害なども深刻であった昭和初期の大阪。この時代の衛生状態から当時の大阪の姿に触れる。
12	月	2:00PM～ 3:40PM	「作られた『京都』らしさと景観」中本大(立命館大学文学部教授) 常に「京都らしさ」が求められる京都の景観。その確立の経緯を古典文学に描かれた風景を辿りながら迫る。
26	月	2:00PM～ 3:40PM	「大阪財界人の文化活動―懐徳堂記念会の設立とその周辺―」飯塚一幸(大阪大学文学研究科教授) 懐徳堂の儒者たちを顕彰するため発足した懐徳堂記念会の誕生を通し、大阪財界人の文化活動を考える。

会場／立命館アカデメイア@大阪　受講料／各2,000円　申し込み・問い合わせ／立命館アカデメイア@大阪内　大阪オフィス☎06-6201-3610

27	火	7:00PM～ 8:30PM	「楽しむ紅茶」納多寿恵子(ティーライフコーディネイター) 受講料：2,000円 (紅茶、お菓子付) 濁らないアイスティーの淹れ方、アイスアレンジティーの楽しみ方をご紹介します。	会場D
28	水	7:00PM～ 9:00PM	「野菜好きのための料理教室」奥有里子(鳥かごキッチン) 参加費： 2,500円 体のために野菜を摂りたいけど、忙しくて…という方のための、シンプルでアレンジの利く野菜料理教室です。	会場G
31	土	11:00AM～ 0:30PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子(料理研究家) 受講料:2,000円(料理費込み) 「ネリkitchen」の豊村さんが、「夏野菜を煮込んだラタトゥイユ」のつくり方をご紹介します。	会場B
31	土	2:00PM～ 4:00PM	「健康講座～自分のカラダを自分で治す」合田光男(国際東洋医療専任講師) 受講料：2,000円 カラダの不調を手技、つぼ療法、金粒療法、東洋医学経筋治療によって自分の手で整える方法を学びます。	会場D
31	土	7:00PM～ 8:30PM	「働き方を見直すワークショップ」笹部朗(ファシリテーター) 受講料:1,000円 キャリアアップにゼッタイ不可欠な働き方とは何かを考えるワークショップです。	会場B
31・8/1	土・日	1:30PM～ 3:30PM	「パーツもアイテムも自分セレクトでハンドメイド！」blooms bury(アクセサリー作家) 参加費：2,940円 定員：各日5名　カチューシャ・バレッタなどからアイテムを選び、お花やリボンのパーツから好みをセレクト、製作。	会場E

A common cafe
大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F
☎06-6371-1800
http://www.talkin-about.com/cafe/

B 中崎町サロン文化大学
大阪市北区鶴野町
http://nakazakicho-u.blogspot.com/

C OOO (オーー)
大阪市北区西天満4-1-5 若松町センタービル 2c
☎06-6362-5150
http://www.outofoffice.jp/

D フレイムハウス
大阪市中央区淡路町1-6-4
☎06-6226-0107　misalele39@gmail.com
http://www.katana.cx/~fureimu/

E タピエスタイル
大阪市中央区南船場4-4-17 B1
☎06-4963-7450
http://www5f.biglobe.ne.jp/~tapie/

F 欧風食堂 ミリバール
大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.
☎06-6531-7811
http://www.artniks.jp/millibar/

G 鳥かごキッチン
大阪市西区北堀江1-14-21
鳥かごビルヂング2F
☎06-6531-7827
ippuku-popo@rio.odn.ne.jp

レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の［アートエリアB1］。7月のラインナップはこんな感じ。

2	金	7:00PM～ 9:00PM	まちあるきカフェ「学生が語る京阪神まちの魅力」定員30名 京阪神のまちを歩いた学生達と、建築家・六波羅氏が木造家屋の魅力、まちの資源の活用法などについて考える。
7・21	水	6:30PM～ 8:30PM	サイエンスカフェ「阪大大学院生による数学・物理の最前線への招待7・8」定員30名 大阪大学大学院生が数学と物理の最先端を案内。日頃うかがい知れない基礎科学の研究世界をわかりやすく解説。
13	火	7:00PM～ 9:00PM	アーティストワークショップ10「高橋匡太の仕事　光のアートプロジェクト」定員50名 光の可能性を実験する高橋匡太が、2010年のミラノサローネ出展や、12月に開催する「夢のたね2010 OSAKA」への想いを語る。
14	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「希望をもつ、ということ」定員50名 「希望がもちにくい」世の中になったといわれる今の日本で、希望をもつ、とはどういうことなのかについて考える。
22	木	7:00PM～ 9:00PM	鉄道カフェ「鉄カフェをみんなで考える15」定員50名 今年、京阪電車が開業100周年を迎えた話題など、鉄道ファンから初心者まで、皆で鉄道に関する様々な情報を交換しよう。
23	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「ポロロッカ―ぼくらは生きている」定員50名 戦争や貧困が世界を襲い、人間を使い捨てにしていく流れに抵抗する闘い「ポロロッカ運動」について考える。
24	土	3:00PM～ 6:00PM	ラウンドテーブル「流れ出るアート」定員50名 芹沢高志、黒田雷児、山田創平、雨森信の各氏による「場所とアートについての4つの発言」から表現の可能性を考える。
25	日	1:30PM～ 4:30PM	ワークショップデザイナーカフェ「ワークショップデザイナーと考えるワークショップイリュージョン」定員30名 (要申込／wsd_lab@yahoo.co.jp) ワークショップに対する疑問に、ワークショップデザイナー育成プログラム修了生が語る。
28	水	7:00PM～ 9:00PM	オルタナティブカフェ「移動のオルタナティブ」定員40名 “ヒッチハイク”の実践者にエピソードを伺いながら、「移動」をめぐる様々について共に考える公開型ミーティング。

会場／アートエリアB1
参加費／すべて無料
開場／それぞれ開始30分前から

問い合わせ／［カフェの内容について］大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）☎06-6850-6632
［場所などについて］アートエリアB1☎06-6226-4006　※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。
※7/25以外は申し込みは不要ですが、当日先着順とさせていただきます（入退場自由）。※お客さま参加型のプログラムです。

中之島ふらふら青春記⑭ 久坂部 羊

青春の密かな悩み

青春時代の密かな悩み。それは私の場合、頭髪だった。

私は子どものころから髪の毛が多く、散髪屋では毎回、櫛状のハサミですき刈りをしてもらうほどだった。だから将来、髪の毛のことで悩むことになろうとは思いもよらなかった。

髪の毛で悩んだといえば、中学2年生のとき、サッカー部で秋の新人戦に破れ、クラブの全員が丸坊主になったときくらいだ。髪の毛がなくなると、私は「トンガリ」というあだ名をつけられた。頭のてっぺんが、握り拳のようにとんがっていたからだ。

これにはわけがある。5歳くらいだったと思うが、祖母の家で、バスタオルをマントにスーパーマンごっこをしていて、出窓から思い切り飛び上がったら、天井が思いのほか低く、したたかに頭を打ったのだ。その衝撃でおそらく骨膜が刺激され、頭頂部の骨が盛り上がってしまった（今もその名残はある）。髪の毛があるときは目立たなかったが、丸坊主になって、露見したというわけだ。

高校に入ってからは、校則もゆるかったので、ベートーベン風の蓬髪にしていた。サッカーでボールを追って走ると、髪が風に吹かれて波打つ。それで「ライオン丸」と呼ばれたりした。

少々アタマのおかしい高校生だった私は、父のチックを借りて（当時はムースなどなかった）髪を両側に逆立て、「魔人ガロン」みたいな髪型にしていたこともあった。今ならパンクかビジュアル系で通るかもしれないが、当時はただの「変人」としか見られなかった。

鬱屈した高校・予備校時代を経て、何とか大学に入った私は、明るい青春を謳歌していた。ところがある日、何気なく見た三面鏡で、信じられない事実に遭遇したのだ。後頭部の地肌がうっすら透けている……。

それを発見したときの背筋も凍るような恐怖は、今も鮮明に覚えている。自分が「ハゲ」る。その運命的な絶望は、そう遠くない先に、小惑星が地球に激突することを確認した天文学者のそれに近いかもしれない。

しかし、思い当たる節がないわけではなかった。私の父は頭頂部が丸くはげており、祖父は前額部が大きく後退しており、写真で見る曾祖父は完全なハゲチャビンだった。もし遺伝が順番通りなら、私はチャビンの番だが、ははは、まさか、この「ライオン丸」がと、それまでは気にも留めなかったのだ。

いったん気づくと恐怖は膨れ上がり、四六時中頭から離れない。まず警戒したのは、だれかに気づかれることだ。自意識過剰の私には、「若ハゲ」などという称号はとうてい受け入れられるものではない。散髪のときは異様にぴりぴり

し、雨や風で髪が乱れるのを必死に防ぎ、人に後ろにまわられることを「ゴルゴ13」並に嫌うようになった。

もっと深刻なのは、つきあっていた彼女がどう思うかだった。将来ハゲそうだから別れるというような女なら、こっちから願い下げだ！と言えるほど、私は強くなかった。どうカミングアウトしたかは忘れたが、比較的優しく受け入れてくれたのではなかったか。

それでも、大学を出てすぐ結婚したのは、やはり髪の毛のあるうちにと、無意識に急いだせいかもしれない。

大学を卒業して、研修医になってすぐ、私は生まれてはじめて養毛剤なるものを使った。「ミラクルグリーン」という抜群のネーミングの薬だったが、これは医薬部外品であり、名前倒れのまやかし品だった。

そのうち、私は絶えず周囲を気にする自分に嫌気がさし、思いきって五分刈りにした。中学2年生以来の短髪である。地肌が透けて見えるのは、髪が薄いからではなく、髪が短いからだという自己韜晦（とうかい）に走ったのだ。

青春記とはややずれるが、さらに後年、私はスキンヘッドにまでした。40歳のときで、当時、私は外務省の医務官という仕事で、パプアニューギニアの日本大使館に勤務していた。

きっかけは、徐々に減っていく髪を惜しむ自分に、突如、むかっ腹を立てたことだ。シンガポールへの出張中、発作的に散髪屋に入って剃ってもらった。帰宅すると妻は言葉を失い、子どもたちはソファの陰に隠れた。

スキンヘッドにすると、いくつか新たな発見があった。まず、意外に手入れが面倒なこと。剃れば楽かと思いきや、ひげと同じで、毎日剃らないとスキンヘッドは保てない。また、頭の皮はほかの皮膚とちがい、トカゲのようにぬめっとしていることも驚きだった。手のひらを当てると、ぴたっと貼りつく。

その頭で泳ぎに行くと、背中と同じように頭が日焼けして、皮がめくれた。上手に剥がすと、トランプくらいの皮が取れる。よく見ると毛穴がびっしり開いている。むかし、大き目のフケを取ると、同じく毛穴の点々があった。ということは、この日焼けでめくれた頭皮もフケの一種？　トランプほどもある世界最大のフケだ。これはギネスに載るのではと思ったが、申請せずに捨ててしまったのは今なお残念に思う。

そんなふうにして遊んでいたが、だんだん手入れが面倒になり、いつの間にか元にもどってしまった。

養毛剤は「ミラクルグリーン」で見切りをつけたつもりだったが、10年ほど前、医薬品として認可された養毛剤が出た。薬名ミノキシジルという市販の液体薬である。

いくら医薬品でも、私は半信半疑だった。ほんとうに効果があるなら、きちんと証明できるはずだ。そこで私は、頭の左半分だけにこの薬を塗ることにした。これなら同じ人間で試すのだから、病院の治験よりも正確な判定ができるだろう。5カ月間、実験を続けた結果は、残念ながら左右差はゼロ。こと私に関しては、ミノキシジルは医薬部外品と変わるところがなかった（あくまで個人の感想です（笑））。

それからしばらくすると、テレビで「薄毛のことをいちばん考えているのは、薄毛に悩むお医者さんです」というムカツクCMが流れた。爆笑問題の出ている宣伝だ。この薬は市販薬ではなく、処方箋のいる薬なので、CMで医者に行かそうとしているのだ。どうせこれも眉唾だろうと思っていたが、妻が近所から数人の著効例を聞きつけ、私にも服用するよう命じた。

説明書によると、4カ月でうぶ毛が太くなり、半年で周囲から「増えた？」と言われるようになり、1年で4人に1人が効果を実感するとある。服用をはじめてそろそろ10カ月。未だ周囲で変化に気づいた者はいない。しかし、実は本人はわずかながら変化を感じているのだ。妻も「ぜったい増えてる」と目をキラリとさせる。

それなのに、なぜか虚しい。何か、モヤモヤする。胸のうちに自己破壊衝動がうごめくのを感じる。このままだと、また突如、スキンヘッドに走ってしまうかもしれない。

ただし、医者の仕事を続けている間はしないつもりです。高齢者の訪問診療に行ったとき、「坊さんはまだ早い！」と言われると困るので。

くさかべよう　1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。
麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。
現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える
契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。
5月末に出した長編『神の手』でいくつか取材を受けました。
NHK出版の上品な宣伝で、売れ行きもすこぶる上品なのが……。

大阪マルシェ「ほんまもん」通信

vol.10
2010.7.1

早くも大人気！ オフィス街で夕市スタート。

大阪マルシェ「ほんまもん」は、京阪神を中心とする地元生産者の方々の
自慢の食材が並ぶ、安心・正直・新鮮・おいしいをモットーにした産直市場です。
先月から始まった淀屋橋odonaでの夕市はさっそく大好評。会社帰りの方が
晩ご飯の食材を買って帰ったり、近所に住む主婦の方が、自転車でやって来たり。
中之島とはひと味違う、オフィス街でのマルシェにも、ぜひ遊びに来てください！

●7月のスケジュール

※開催時間は諸事情により、直前に変更になる場合があります。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
OAP日曜朝市 10:00AM〜3:00PM 4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24 この日はお休み
25	26	27	28	29	30	31

毎週土曜日は 中之島朝市 9:00AM〜2:00PM

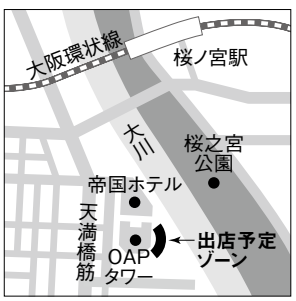
毎週水曜日は 淀屋橋odona夕市 3:00PM〜8:00PM

淀屋橋odona 日曜朝市 11:00AM〜4:00PM

中之島公園

淀屋橋odona

OAP



開催情報、出店のお申し込みなどお問い合わせは ☎072-415-4500

大阪マルシェ「ほんまもん」事務局
（財）佐野市公園緑化協会内

※小雨決行、荒天中止とさせていただきます。※主催者側では駐車スペースをご用意しておりません。なるべく公共交通機関をご利用下さい。

月刊島民を「定期購読」しませんか？

ナカノシマ大学をはじめ、「学びの場」情報も加わり、
中之島から大阪へと拡大しつつある『月刊島民』。
「遠方に住んでいてなかなか手に入れられない」
「先月はうっかり取り損ねてしまって…」
ファンの方のそんな声に応えるべく、
昨年末から試験的に定期購読を行っていましたが、
今年春からは本格的にスタートしています。
毎月、確実に読みたい方はぜひお申し込み下さい。

●料金
8ケ月／ 1,600円（2010年8月号～ 2011年3月号）
※料金には送料・手数料を含みます。
※7月23日（金）までにお申し込みいただくようお願いいたします。
●お申し込み方法
1.郵便振替　口座番号：00990-5-299267
2.現金書留　料金を同封し下記の宛先までお送り下さい。
〒530-0004　大阪市北区堂島浜2-1-29　古河大阪ビル4F
月刊島民プレス（株式会社140B内）宛
◎ご入金を確認した時点で、ご連絡を差し上げます。
　郵便振替の場合、手続きに2週間前後かかりますので、ご注意下さい。
※諸事情により、到着が2～3日遅れる場合もあります。予めご容赦下さい。
※原則として、途中解約は受け付けておりません。
※ご記入いただいた個人情報は冊子・サービスを
　お届けするためだけに利用し、その目的以外での利用はいたしません。
●お問い合わせ　月刊島民プレス 定期購読係　☎06-4799-1340

●カフェタイム限定メニュー
ショコラ・リエジョワ
コーヒーのグラニテと、チョコレートのアイスクリーム、カリッとしたアーモンド・キャラメルのヌガティーヌ。冷たくさわやかな甘味とそれを引き立てるほろ苦さが口の中で溶け合う、夏のデザートです。
コーヒーとのセット￥1,400
アルコールとのセット￥1,800
※共に税別・サ込み

●フードフランスビストロ開催
7月22日(木)～27日(火)
パリ7区の人気ビストロ
「レ・ココット」のシェフが来日！
ランチ￥3,600～
ディナー￥6,000～
※共に税・サ込み

ル・コントワール・ド・ブノワ
大阪市北区梅田2-4-9
ブリーゼブリーゼ33F
☎06-6345-4388
http://www.comptoirbenoit-osaka.com/
ランチ11:00AM～2:30PM (L.O)
カフェ2:30PM～4:00PM (L.O)
ディナー5:00PM～9:30PM (L.O)
不定休

休息の時間にも、季節の味を。

LE COMPTOIR de BENOIT OSAKA

中之島からゆく
駅前オーライ!
第4回

なにわ橋

文／江 弘毅（本誌）　絵／綱本武雄（本誌）

地下駅を上がれば中之島のランドマーク。これもまた、大阪の駅前。

案外、大阪はミナミや梅田周辺しか行ったことのない人が多い。そういう人を中之島公園に連れて行くと「大阪にこんなところがあるとは」と必ず驚く。また普段、心斎橋筋や船場、北新地などをスイスイと泳いでいるような大阪人も、なかなか最近の中之島公園の変貌に気がついていなくて、「えー、こんなことになってるんだ」という声を上げる。

京阪電車中之島線開通にシンクロするように、中之島公園の整備が進んでいる。とくに中之島のシンボルとなっている中央公会堂から東、つまりこのなにわ橋駅からバラ園、天神橋、剣先にかけての一帯は、ここ1年でがらっと様変わりした。

その中之島公園のちょうどど真ん中にあるのがなにわ橋駅である。この駅はコンコース階の吹き抜けに木が使われている。ヒノキの一種であるカナダ産レッドシダーとのことで、赤っぽい

無垢材の質感はとてもモダンだが落ち着いた感じがする。地上までのエスカレーターを上がると中之島公園だが、その出入口に当たるアーチ型の建物は安藤忠雄氏によるもの。もし誰かを案内するときは、そのこだわりを自慢しよう。「さすが中之島公園内にある駅だろう」と。

東側の1番出口からは、中央公会堂前に降り立つ。そこがどこだかわからない回りの地形や景色も真っ暗な地下線路の光景から、無垢材のグッドデザインの改札階を抜け、コンクリートとガラス・ブロック外壁の抽象的な地上への連絡エスカレーターの後、中之島公園のメイン・ランドマークである近代建築煉瓦の建物へのいきなりの対面は「あっ」と驚いてしまう。

そこから難波橋へつづく南側、土佐堀川に面した絶好の場所には、6月初旬にオープンしたばかりのカフェ・レストランがある。白いパラソルが開くオープンエアのテラス席、小径に面したガラス・ウォールからはシャンパングラスが見える。東洋陶磁美術館の落ち着いた感じの建物やバラ園の緑。そんな光景に囲まれていると散歩したくなる。

左右「なにわばし」とある橋名板のうえに阿吽ライオン石像が飾られていることから「ライオン橋」と異名を取る難波橋。大正4年（1915）完成のこの橋は、堂島川と土佐堀川の2本の川を一つの橋で渡る構造になっていて、ちょうどまんなかあたり、ヨーロッパの古い劇場で見かけるような豪華な石の階段を下りると中之島だ。橋の下にはバラ園が続くが、そこから橋を渡るとそのライオンを背中から見ることになる。北浜へ渡ってすぐ南側に回るとそのライオンが口を開けている方だとわかる。こういうリアルな発見がおもしろい。土佐堀通越しの左前に大阪証券取引所。前にはその発起人として五代友厚の銅像が立っている。

さて大阪城天守閣で行われた「特別展浪花百景―いま・むかし―」の図録集には、幕末の歌川国員（くにかず）による「三大橋」（難波橋、天神橋、天満橋）、「浪花橋夕涼」の2枚の錦絵が収録されている。浪花橋（難波橋）のことはこうある。

「華麗な照明灯とライオンの彫刻が独特の雰囲気をかもしだしている難波橋は、（略）橋上から十有余の橋を見渡せ、浪花三大橋のひとつにも数えられる名橋であり、夏の夕べには付近の川端に納涼客をあてこんだ茶店がならび、また軍書講釈なども行われていてすこぶるにぎやかであった」

さしずめ今の難波橋なら、茶店は新しくできたカフェレストランであり、講釈は大阪に誰かを案内する際の「こんな場所もあるんです」というあなたの説明である。

中之島へ光を見に行く。
vol.2

天神橋

取材・文／花村周寛
（ランドスケープデザイナー）
取材協力／大阪市建設局　大阪市ゆとりとみどり振興局
大阪・光のまちづくり企画推進委員会　関西電力株式会社

中之島の東の入口を照らす「不死鳥」。

天神橋は過去に三度姿を変えている。江戸時代に公儀橋として幕府によって架けられたのは木橋だった。明治に入り洪水の濁流に呑まれ落下した天神橋は、深紅の鉄橋として生まれ変わった。これが二度目の姿だ。今、我々が目にする三連アーチの鉄橋は昭和9年（1934）に架けられた三度目の姿。しかし実は四度目があるのではないかと思っている。それがこの光の橋としての天神橋だ。

天神橋のライトアップは以前から行われていたが、ライティングが施されたのは水都大阪2009の開催時だ。ライトアップとライティングは正確には違う。ライトアップとは照らされる橋や建物がよく見えるように光を当てることだが、ライティングとは光そのものを風景として見せることだ。

天神橋の特徴的なアーチ構造は内部からライトアップされている。長さが全て異なる骨組みがきれいに浮かび上がるように、80台のライトの角度や向きを一つずつ微妙に調整している。そのライトアップを殺さないように、橋の外側にライティングが施された。水上を渡る橋の直線とアーチの円弧が強調されるようにLEDの光が走る。アーチの中央部分にはひときわ明るいライトが二つ灯っている。これは天神祭のかがり火をイメージしたものだという。少しオレンジがかった炎の表現。そのかがり火の光をより強調するために、アーチをなぞる光は根元から中央に向かって少しずつ暗くなっている。

器具の取り付け方や金具にも細やかな配慮がなされている。直接光源を見せるのではなく、光を間接的にこぼすことでまぶしさを抑えると同時に、器具や金具が昼間の風景を損なわないように考えられている。中央部分のアーチだけは剣先公園の上にあたるためライティングがされていないが、日が暮れると公園の先端から上げられる大噴水に光が当てられる。その時、東から臨んだ中之島はまるで光の柱を頭にして、天神橋の光翼をもった鳥のような姿になる。

何度失われても甦る天神橋。今度はまるで東にはばたく不死鳥のように光の鳥として姿を現した。輝く天神橋の風景は、中之島への光の入口のように見えないだろうか。南北に走る道路によって切り取られている大阪の中心で、東西に長く横たわる中之島。これからその一つ一つの場所に灯された光が東西へつながることを、天神橋は不死鳥の姿として表しているのかもしれない。

今月のスポットライト！

橋名板を照らすためにアーチの中央部分につけられた灯り。天神祭のかがり火をイメージしている。この灯りを際立たせるため、アーチをなぞる灯りは中央に向かって徐々に暗くなっている。

取材・文／太田 麻夏（本誌）

第16回

[MOTO COFFEE]@北浜ライオンビルディング

難波橋たもとの小さなカフェは、街の変化を映して。

難波橋の南詰、どっしりと鎮座するライオン像の傍らで目を引く建物がある。正面からは真っ白の壁にしか見えないが、橋から見ればやはりビル。それにしてもあまりに細く、個性的な姿をしている。

「昔は中之島ってなんとなく、薄暗いイメージだった。小さい頃はあまり遊びに行くこともありませんでした」そう語るのは、内本町に生まれ育ち、近くの小学校に通っていたビルのオーナー。築40年以上建つこのビルはお祖父さんから受け継いだものだ。

そこでカフェをやろうと思い立った一つのきっかけは、一昨年から始まった「北浜テラス」だった。北浜テラスとは中之島公園の整備や水都大阪2009の開催に先駆けて行われた実験的プロジェクトで、イタリア料理店や蕎麦屋、居酒屋など川べりの店がテラスを出し、京都・鴨川の床のように水辺での食事を楽しめる。人気を博し、今年からは４店舗に常設されることとなった。変わりゆく中之島の姿を見て、「このビルも何かに活かせるかな」と刺激された。

そして今年３月、地上４階・地下１階のビルは［MOTO COFFEE］として生まれ変わった。小さなドアを入ってすぐのショーケースにはマフィンやパンが並ぶ。カフェスペースは木の椅子やテーブルでくつろげる地下席と川べりのテラス席。サラリーマンや散歩途中のお年寄りが、コーヒーとパンを片手に読書や景色を楽しむ姿が見られる。

洒落たカフェとなっているここに、昔は中華料理屋が入っていたと聞いて驚いた。この狭いスペースでどうやって料理していたのか。その姿も一度見てみたいと、コーヒーを飲みながらふと考えた。

ブルーベリーマフィン（350円）、季節のカレーパン（210円）、ホットドック（280円）など、店内で扱うパンは吹田の［mille village］から毎日入ってくる。こだわりのアイスコーヒー（500円）と一緒に。

外側だけでなく店内も基調は白で統一。２階、３階には貸し切り使用がメインとなる個室もあり、今後はワークショップなどのイベントの予定もあるそう。

MOTO COFFEE（モト コーヒー）

コーヒーは名古屋coffee kajita］の豆を使用。苦味・酸味のバランスが良く、後味がすっきりしているのも特徴・コーヒーもパンやマフィンもすべてテイクアウト可能。これからの季節は木陰でアイスコーヒーなんていうのも良いかもしれない。☎06-4706-3788
12:00PM～7:00PM　日・祝休

夏祭りで男を上げた、根津四郎右衛門。

「根津の親方、こっちで御覧なさいまし」と、淀屋橋南西角に店を出す玉田屋の主人。やってきたのは身の丈六尺有余。年頃は二十半ば。肌は陽に焼け赤銅色。誰あろう、近頃、中之島の蔵屋敷へ出入りする米仲仕の親方・根津四郎右衛門。

「大坂の夏祭は天神祭だけと違いますで」「そうかな」「親方は初めてですな。淡路町の御霊神社の蒲団太鼓は、喧嘩太鼓と言われるぐらいでね。御霊筋から土佐堀川沿いを東へ来て、淀屋橋を渡ります。丁度ここが一等席」

程なく、橋南詰辺りで「ウワーッ」という歓声。「来ましたな。なにしろ今年は海部堀の合物仲仕が担いでまっさかい気ィが荒い。おまけに酒に酔うてるさかい…何事もなけりゃエエですが…」と心配顔の玉田屋。

すると「危ない、どかんかぃ」と怒鳴る声。見ると、太鼓台が淀屋橋へ差し掛かり、左へ曲がろうとしているのだが、酒に足を取られ、曲がりきれずに南東詰めに突っ込んだ。

中之島からもほど近い淡路町にある御霊神社。今年の夏祭りはは7月15、16日に行われる予定。

この時「何しくさる。見物衆が怪我するやないか」と、一人の若い者が、太鼓台の棒鼻を右の掌で「グイッ」と押し返した。その怪力たるや、太鼓台が止まった。これで怪我人は出なかったが、煽りを喰らって太鼓台は横倒し。

「あいつが神事の邪魔しやがった！」。合物仲仕たちは己の不手際を棚に上げ、「いてまえっ」と、その男に群がる。「西横堀尼崎橋の石仲仕の喜三郎とはワイのことじゃ」と、若い者は気丈にも一人で立ち向かうが、多勢に無勢。哀れなぶり殺しになるか…というその時早くかの時遅く。タタタッと飛んで来たのが根津四郎右衛門。「お前ら酒に足取られた恥を一人の男に擦り付けやがって」と、数十名を土佐堀川へと投げ込んで、喜三郎を肩に担ぐと大音声。

「米仲仕の根津四郎右衛門じゃいっ、文句があったらいつでも来やがれっ！」

祭りは神事であると同時に、男を上げる格好の場でもあったのだ。話はこれから仲仕同士の大喧嘩へと発展する。アッ、勿論、講談『浪花侠客傳』の一節でございます。

きょくどう・なんかい
1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前（1989年）に三代目旭堂南陵に弟子入り。1998年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花侠客伝」「天満宮霊験記」など。

また来てしもたわ、あー中之島。

バッキー・イノウエ

其の十

中之島へ行けない。団栗橋の壁。12日間連続、焼肉屋で勝負球。

なかなか中之島へ行けない。京阪電車に向かう道中には多くの壁が立ちはだかっている。まず裏寺に［百練］がある。なんとも街に馴染んできた酒や肴や漬物を知らん顔をしてなかなか通り過ぎにくい。カウンターで胡瓜の古漬をアテに熱燗を飲みたくなる。しかし自分自身が関わっている店でもあり、行くと悩みが増えるので早足で下向き加減で通り過ぎることもある。

そして四条通を東へ進み京阪に向かう途中、高瀬川を越える前に最近強烈な壁が出現した。木屋町の団栗橋下がったところに新しくできた、焼肉屋の［アジェ］のいわば2号店である。

木屋町通沿いにヒョイとのれんが下がった焼肉屋。俺は焼肉も好物には違いないが、俺がこの団栗橋の［アジェ］に強く引きつけられるのは焼肉を食いたいからではない。宵の口の焼肉屋のカウンターで一杯飲みたいからだ。

木屋町通に面しているこの店の、カンテキが置かれたカウンターで酒を飲む。店の外を見ることはないがガラス戸から外の気配を感じることが出来る。お客さんがひっきりなしに入ってくるのも酒をうまくする。別に酒なんかうまくなかったっていい。それがうまくなる術を知っているから、味なんかどうだっていい。

しばらくモヤシのナムルだけで飲む。そのうちに生レバーと焼肉を注文する。並ミノとタンスジとウルテ。上ミノが高級で並ミノが安物なのではない。圧倒的に酒に合うのに並ミノなどと言われて並ミノがかわいそうだ。俺は断然並ミノを支持する、きばることないけど。聞き慣れない名前だけどタンスジはうまい。だいたい最近の焼肉は肉の部位に名前を付け過ぎている。チレやらマメやらシラズやらコブやらタケノコやら。昔はみんなごちゃ混ぜにして食っていて、部位の名前など覚える奴は変態だった。そしてウルテ。俺はこのウルテをほとんど焼かずに食うたり真っ黒に焦げるまで焼いて食ったりするのが好きだ。だからウルテを注文すれば2種類の楽しみ方があるというわけだ。

そして酒を飲んでいても白飯は必ず早いめに肉と一緒に注文する。焼けた肉を白飯の上でとんとんして肉汁とタレの焼肉の花を白飯の上に咲かすのである。「白飯の上に咲く焼肉の花」というフレーズを俺が生み出したのは約20年前。今思えばまさに天才だ。

まあそんなこんなをしながら俺は焼肉で酒を飲み。最後にドジョウ汁でフィニッシュする。俺はこの団栗橋に焼肉屋が出来てから、12日間連続で行った。そして俺はジンマシンが出た。そのジンマシンは多分、肉や酒が原因ではないと思う。それはドジョウ汁の飲み過ぎなんだと俺は俺の中の医者が診断した。俺が越えねばならないのはきっと団栗橋だろう。そう思う。

ばっきー・いのうえ　京都・錦市場の漬物店［錦・高倉屋］店主にして日本初の酒場ライター。雑誌『Meets Regional』などで名フレーズを量産中。近著『京都 店 特撰』が絶賛発売中。

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です!

『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

書店：ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店淀屋橋店／福家書店 淀屋橋店／天牛堺書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店天満橋店／紀伊國屋書店 京橋店／隆祥館書店／なんば書店カルチャーコーナー

公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中央公会堂／府立中之島図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪市立中央図書館／大阪歴史博物館／大阪城天守閣／大阪狭山市立図書館／奈良県立図書情報館／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪企業家ミュージアム／味の素 食のライブラリー／朝日カルチャーセンター／大阪大学中之島センター／大阪大学本部／大阪大学21世紀懐徳堂／摂南大学地域連携センター／慶應大阪リバーサイドキャンパス／追手門学院 大阪城スクエア／追手門学院 大手前センター／関西学院大学大阪梅田キャンパス／専門学校中の島美術学院／大阪工業技術専門学校／ろうきんギャラリー心斎橋／大阪倶楽部／中央電気倶楽部／芝川ビル／N4タワーマンションパビリオン／ホテルNCB／ABC朝日放送／大阪フィルハーモニー会館

店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可／ラ・クッカーニャ／アリアラスカ マーブルトレ／MANGUEIRA／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー／黒門さかえ／花かつ／ティーハウスムジカ／MJB珈琲／平岡珈琲店／喫茶SAWA／アンドール本町本店／あじさい／Calo Bookshop and café／EXPO CAFE／喫茶カンタータ／BAR THE TIME 天神／タパーン・シンプソン／パストラーレ／LES LESTON／大西洋服店／上町貸自転車／ザ・メロディ／カセッタ／セブンイレブン大阪証券取引所店／吉田理容所／たまがわ鍼灸整骨院／宮崎歯科／心斎橋山田兄弟歯科／東郷歯科医院／ネイルサロンスワンナ

バックナンバーお譲りします。

2008年8月に創刊した『月刊島民』。大きな支持をいただいていることは、「バックナンバーありませんか?」と月刊島民プレスを訪ねてくる方々の多さからも伝わってきます。さて、そのバックナンバーにつきまして、1冊につき100円をいただくこととなりました。号を重ねていくうちに保管用のスペースが必要となり、そのための維持管理費を負担していただく形です。何卒、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。お問い合わせは下記の電話番号まで。

次号予告 **水辺にてカンパイ!**

夏真っ盛りのうだる暑さをむしろ楽しむように、中之島のあちこちではビアガーデンが大盛況。実はビールは中之島に縁深い"地酒"って知ってた?

●『月刊島民』vol.25は2010年8月1日発行です!

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作　綱本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創　大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340　Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山﨑慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

月刊島民 中之島 24号 2010年7月1日発行 編集・発行人／江 弘毅（40B）編集・発行／月刊島民プレス 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古川大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車

日本三大祭のひとつ

天神祭

楠葉けい子（大学生）

船渡御

7/25（日）の夜「臨時列車」増発！

7/24（土）…宵宮

7/25（日）…本宮

陸渡御（りくとぎょ）…大阪天満宮15時30分出発

船渡御（ふなとぎょ）…天神橋・飛翔橋18時出発

奉納花火…19時頃から打ち上げ

●天満橋駅、なにわ橋駅、北浜駅、京橋駅下車

京阪のる人、おけいはん。

天神祭の情報は
おけいはん 検索
www.okeihan.net